

# 新潟医療センターニュース

第6号  
 発行 JA新潟厚生連  
 新潟医療センター  
 発行責任者 田中憲一

新潟医療センターでの分娩開始から約一年。昨年七月に最初の産声上がり、現在までに計三十一名の赤ちゃんが生まれになりました。理念に掲げた「お母さんと赤ちゃんの幸せを一番に考えた医療」となるよう心がけスタッフ一同、日々の診療にあたっています。助産師数は開設当初の数より倍増し、さらに充実いたしました。

う、フリースタイル分娩です。助産師とともに作り上げる分娩は、妊婦さんやご家族から高い評価をいただいています。分娩後は無理なく、不安なく母乳育児を確立できるよう、サポートしています。退院後も母乳や育児の悩みについて気軽に相談いただけるよう、毎週水・金曜日に助産師外来を開設いたしました。当院で分娩された方は勿論、他院で分娩された方にもすでにご利用いただいています。また、下記で詳しく紹介して



## お母さんと赤ちゃんの幸せを一番に考えた医療

## 産科開設から二年が経過、充実したサポート体制の確立

月2回のベビーマッサージの様子

おりますが、赤ちゃんとのスキンシップを目的とした、助産師によるベビーマッサージ教室も開講いたしました。妊娠中の管理においては、今秋より、これまで妊婦健診の中で行っていた超音波胎児スクリーニング（より精密な胎児超音波検査）を別枠で行うことで、より細かい検査を施行出来るようになり、助産師による保健指導は、レクチャー方式の集団指導と、個人対応の指導とに分けて行うよう変えていく予定です。この改変により、個別相談の時間を長くとれるようになり、妊婦さん個々の状況により速く、より



先月末に出産されたお母さんと産科スタッフ

## 9.月誕生のベビー

深く対応できるようにあります。他施設に先んじて取り入れた、小児科医による育児相談（ペリネイタルビジット）も出産後の不安解消につながり、受けてよかったと声を多くいただいています。これからも安心安全なお産を心がけ、妊婦さん、ご家族の期待にこたえられる産科であるよう努力してまいります。

産科医長 白石あかり

## お母さんのマッサージに赤ちゃん上機嫌

去年の四月から産科病棟がスタートし、一年が経ちました。たくさんのお産に立ち会い、母子共に退院していく姿を見て、お家に帰ったあとも育児を楽しめることができるようにサポートできることはないかと考え、ベビーマッサージを始めました。

## 変わりゆくミャンマーに懸ける橋

## ロマンマーの医療支援十四年

病理部長 内藤 眞

私は二〇〇〇年から留学生をパートナーとしてミャンマーの医療支援を続けてきました。薬剤や医療機器を提供するとともに、二〇〇三年からは感染症の共同研究を立ち上げ、ミャンマーのインフルエンザの実態を初めて明らかにしました。また、十人のミャンマー人研究者を新潟に招き、指導しました。軍政による厳しい社会情勢の下、種々の困難を乗り越えて活動してきましたが、意外にも二〇一〇年十一月の総選挙以降、ミャンマーの民主化への歩みが始まりました。アジア最後の秘境ともいべきミャンマーに先進国経済人が押し寄せ、ホテルは満室。宿泊費や土地代は高騰してバブル状態を呈しています。ミャンマーが世界に注目され、開か



れた国になることは喜ばしいことです。しかし、経済発展が国民の生活を豊かにするまでには時間がかかります。ここ三年間、ミャンマーの病院で改善の兆しはまったく見えません。これからも今まで築いた人脈を最大限に活用し、日本と新潟の善意を集結し、ミャンマーの人たちの健康と生活向上に貢献していきたいと考えています。

ベビーマッサージはオイルを使って赤ちゃんをマッサージし、親子の絆を深めるものです。赤ちゃんの目をみて話しかけ、マッサージすることで赤ちゃんのからだや心の成長、発達に良いだけでなくお母さん自身の心も癒してくれます。ベビーマッサージの後には、育児などで心配事や不安に思っていること助産師に相談したり、参加者同士で赤ちゃんの成長のことなど

話したりすることがあるのでママ友づくりの場としても活用してもらいたいと思います。また、ベビーマッサージの他に産後ケアとして助産師外来も行っており、当院で出産された方だけでなく、他院で出産された方も対象に行っていること、困っていることや悩んでいることなど何かありましたら産婦人科外来にお気軽に声をかけていただきたいと思います。助産師 川村志保

(裏面も) 覧ください



「こぼりん」新潟医療センター病院祭ゆるキャラ

ふれあいステージ・講演・模擬店・バザー  
イベント盛りだくさん!!

11月 午前10時～午後3時

16日(日)

# 第1回 病院祭

地域との絆づくり  
～健康を考える憩いの場として～

## 新潟医療センター

消化器病センター開設・新棟オープンを祝い!

特別講演 「進歩した消化器診療」

消化器病センター長 青柳 豊

「変わりゆくミャンマーにかける橋」

～医療支援14年の記録～ 病理部長 内藤 真 (米百俵賞受賞)



消防車両展示

この機会に  
フットケアして  
みませんか!

気軽にできる健康  
チェックコーナーで  
お待ちしております☆

模擬店・喫茶・バザー  
新鮮野菜販売・綿あめ  
風船配布もあるよ!

ご家族でのお越しお待ちしております!

お問い合わせ 新潟医療センター総務課 TEL025(232)0111(代表)

新しくなった  
新潟医療センターを  
見に来てください!

産科始めています!  
先生もスタッフも女性のみ♪  
気軽にご相談ください!

## 病院探索

### 病院祭に向けての取り組み

当院は、新潟医療センターとして開院してから五年余りが経過しようとしております。この間、産科、病理センター、消

化器病センター(十一月)の開設に貢献した地域医療者等に感謝状を贈りました。また、消化器病センターの開設にあたり、地域の皆様からご意見を伺い、健康増進の場として活用したいと考えています。この「病院祭」を企画した

された病理部長の講演が、予定されており、そのほか、産科・フットケア・糖尿病・MRI装置等の紹介ブースが設置されま

コーナー等もあり、家族の皆さんもお楽しみ頂けると思っております。ミニ検診コーナーでは、美肌年齢・血管年齢・骨密度等の無料健康チェックも行います。この機会に、健康の目安として体験してみてください。十一月十六日(日)の病院祭開催に向け、職員一同、楽しみながら準備を進めてまいります。ご期待ください!

第一回病院祭  
副実行委員長 大橋利弘



広くなった薬局窓口

## 薬局の 新規移転

消化器病センター開設に伴い医事課と薬局が移動する事となりました。

新築工事は急進的に進み予定通り完了、休診日に移動を終え、九月八日(月)より新棟で始動でき感無量です。

お薬お渡し窓口は広くなり、間仕切りも高くすることで、今までよりプライバシーが守れるようになりました。

またカウンター上にパソコンを置き、お問合せに即座に回答できるようにしました。

調剤室内のレイアウトも工夫し、待ち時間が長くないよう努めています。

初日に、お薬の出来上がりの表示板が見づらい、冷房の風が直接当たって寒いなどの苦情を頂きましたが、出来る範囲で改善しました。

今後心機一転患者さん本位の医療を心掛けます。  
以下は外来窓口業務の紹介です。

○外来患者さんの九割以上が院内調剤です。待ち時間短縮に平日頃より努めています。時間帯、お薬の内容、処方内容の医師への問合せ等により、長時間お待ちさせることもあります。申し訳ありませんがご了承下さい。

○お薬をお渡しする際、丁寧な説明を心掛けています。お急ぎの方、薬の変更がなく、説明が不要の方はお申し出下さい。

○窓口の開いている時間は次の通りです。

平日：午前八時三十分～午後十八時  
休診日：午前八時三十分～午後十七時

○お薬を受け取らず帰られた場合、当日夕方ご自宅にお電話させていただきますので、ご自宅連絡先に変更がありましたら事務窓口にお知らせ下さい。

薬剤部長  
石川 貢

## 編集後記

五月より始まった外来棟増築工事が終わり、医事課と薬剤部が新しく出来た南口玄関側へ移動となりました。

明るくきれいな外来受付窓口、会計窓口、待合室を見ていると、自分も初心に帰って頑張ろうという気持ちになります。

十一月には消化器病センターがオープン予定です。より新しく便利になる新潟医療センターに今後もご期待ください。



(夏目)